

NPOつくる。職場になる。

県センターが設立指南書



就職先がなければNPO法人(特定非営利活動法人)をつくらう。NPO法人長野県NPOセンター(長野市)は、不況で働く場が見つからない

若者・シニア 仕事ない人にPR

い若者やシニア向けに、それぞれNPO法人の設立方法を指南する本や冊子を作っている。厳しい雇用情勢を逆手にとり、職業選択の一つとしてあためてNPOをアピールし、NPOの現場に両世代のエネルギーを呼び込もうという狙いだ。

若者向けの本づくりを担当するのは、同センター常務理事で、若者の自立支援などに取り組む上田市のNPO法人「侍学園スクオア・今入」理事長の長岡秀典さん(36)。「中高生や大学生のほか、ローワークに何度通っても仕事がない若者に、NPOの可能性を提案したい」と、4月発売を目指している。

この本ではNPO法人設立の方法を分かりやすく紹介するだけでなく、「人の役に立ち、食べていけるNPOの姿をアピールする」と長岡さん。一定の収入を得ながら安定経営を続けられるかどうかは多くのNPO法人の課題だが、それを乗り越えてまっすぐや若者の就労支援などで活躍する全国の20、30代のNPO法人代表者6人のインタビューも掲載する。

長岡さんは「平凡だった若者が、企業活動にも負けないNPOを立ち上げ、運営し

ているかに焦点を当てる。読み終わって気持ちが燃え始めるような本にしたい」と意気込んでいる。

一方、定年退職後などのシニア世代には、地域の「便利屋」として活動するNPO法人設立の仕方を載せた冊子を作っている。便利屋は登録した人が技能を生かし、さまざまなサービスを有料で提供する構想。同センター理事で、

全国の福祉系NPO法人でつくる市民福祉団体全国協議会(東京)専務理事の田中尚輝さん(66)は「定年退職後も働きたいという人を労働に結び付けることが狙い」と話す。

同センターは県労働者福祉協議会(長野市)と連携し、年度内に長野、松本、上田、飯田、諏訪各市の同協議会事務所を拠点に便利屋としての活動を始める予定で、冊子

を通して、ほかの市町村にもこうしたNPO法人設立の動きが出ることを期待している。同様のサービス自体は各地のシルバー人材センターも取り組んでいるが、田中さんは「便利屋の登録者にはそれぞれ経営者として、顧客開拓やサービス内容の新規開発などに積極的にかかわってもら

う。責任も大きいやりがい、はより大きい」としている。

2を試寒つけ開